

視 点

千葉大学 法経学部 経済学科 青山耕治

私は、一橋大学の情報処理センターの助手を2年半ほど勤めた後、2000年4月から現職(千葉大学講師)に着任した。現在、学科の情報関連の専門教育科目、教養教育(千葉大学では普遍教育と呼ぶが)の情報関連の科目などを担当している。私の仕事は、このような情報関係の教育や研究を行うことになっているのだが、学部のメール、Webサーバや部局内LANの管理運用をまかされており、事実上、それらの管理運用業務の合間に、教育を行っているという日々である。サーバやネットワークの管理運用を行うことが、現職に採用されるための条件のひとつであるため、ある程度は仕方がないのであるが、ほとんどの時間をネットワーク管理などに取られてしまうため、正直なところ、かなり困っている。

私の所属する法経学部は、いわゆる文科系の部局である。とはいえ、このご時世だから、ほとんどの教官はコンピュータなどの情報機器を所有し、ネットワークを介して研究、教育を行っており、日々ますますネットワークやコンピュータへの需要が高まっているし、全く技術力のない単なるエンドユーザも確実に増えている。実際、ネットワークが不通になるなどのトラブルがあれば、大騒ぎになる。

その一方で、それらを管理する専門部隊は、当然ながら存在していないし、ネットワークについての技術を持った人もほとんどいない。さらに、私の所属する部局はもともと予算規模は小さく、派手にお金を使って外注するなどは事実上不可能である。

幸い、最近では、PCの高性能化、低価格化やライセンスフリーな優れたOS(LinuxやFreeBSDなど)の登場によって、サーバなどのシステムを立ち上げるのは、数年前に比べればかなり安く手軽に行えるようになった。実際、私の部局では、メールサーバからルータまで全てPCにLinux(Debian GNU/Linux)を導入し運用を行っており、そのくらいのお金ならば何とか用意できる。

しかし、システムは立ち上げたらそれで終わりではない。むしろそこからが始まりで、セキュリティ対策、データのバックアップ、ハードウェアやソフトウェアの保守、利用者からの問い合わせへの対処、利用のためのドキュメント管理など様々な作業が必要で、これらをあげたらきりがない。さらに、365日24時間連続安定運用を目指そうとするならば、一つ一つの作業をさらに神経質に行うことになるだろう。

私が今一番問題と思うのは、このように、ネットワークやサーバの管理運用にお金や労力が必要であるという認識が部局内にほとんどないことである。機会があるごとに、教官の方々には理解頂くように努めてはいるが、なかなか受け入れてもらえない場合も多い。ただし、これは私のおかれている環境に特有のことなのかもしれない。

最近、大学の教官がネットワークやサーバの管理をボランティアで行う時代は終わったのではないと思う。大学でネットワーク管理の専門家を雇ったり、専門の部局を作ったりする動きが出てくることを強く希望している。しかし、もしばらくは、なるべく低価格、少ない労力で運用できるシステムを構築しながら、ネットワークの運用にはお金と労力がたくさんかかることを宣伝していくしかないだろうと個人的には考えている。

これから、初等、中等教育の現場で「情報」が正式科目として取り上げられるようだが、授業で使う設備の管理運用は誰が行うのだろうか。予算は用意してあるのだろうか。私が心配することではないかもしれないが、一部の管理にあたられる現場の方々がしわ寄せがいかないだろうかと憂慮している。